

# 令和4年度「児童生徒自身によるネット利用 ルールづくり活動」事例紹介校実践報告書

## 1 学校の概要

- (1) 学校名 所沢市立所沢中学校
- (1) 学級数 23学級
- (2) 児童生徒数 758人
- (3) 教職員数 44人

## 2 「児童生徒自身によるネット利用ルールづくり活動」に関する取組について

### (1) 取組内容（昨年度までの取組や本校の児童生徒の利用状況等について）

- ・生徒の興味・関心は高く、chrome bookを使った各授業には積極的に取り組んでいる。
- ・タブレット等の電子機器の利用に慣れている。
- ・ルールや決まりについての判断力に乏しい生徒がいる。規範意識に課題がある。
- ・“chrome book 利用委員会”として、メンバーを組織し、利用のルールやマナーを生徒同士で話し合って全校統一で制定した。
- ・令和4年6月24日、生徒総会にて委員会で話し合って決定したchrome bookの利用ルールについて、代表者から全校生徒に伝達した。
- ・1学期末に、委員会で「夏休みの利用について」を協議した。
- ・2学期中に、全校生徒の「chrome bookの利用の現状について」を協議した。



## 3 広報活動について

- ・令和5年2月16日、所沢市生徒指導主任研修会にて、本校の取組内容を広く市内に紹介した。

## 4 活動の成果と課題

### (1) 成果

- ・「chrome book 利用委員会」の組織メンバー同士の交流  
1学年から3学年、特別支援学級の生徒が一同に集まって、利用のルールについて話し合うことで、異年齢集団での活動や関わりの機会を持たせることができた。その中でも、3年生は特に話し合い活動のまとめ役を自主的に担いながら、活発な意見発表をして取り組むことができていた。

- ・生徒の規範意識の醸成  
あらかじめ学校や教師側から提示された決まり、ルールではなく、生徒主体となって問題の発見や正しい使用の理解を進めていくことで、自治的な活動とすることができた。
- ・自己決定、意思決定の場の設定  
自分たちはこうなりたい、このようにしたいという生徒の思いを、自ら責任と自覚を持って決定していく機会を意図的に設定することができた。

## (2) 次年度以降の課題

- ・「chrome book 利用委員会」の組織編成の工夫  
現状は各学級で一名の選出であったが、次年度からはさらに有志を含むメンバーの選出や生徒会本部との連携を密に図っていきたい。
- ・利用ルールの周知の工夫  
全校生徒にわかりやすく、常に意識できるようなルールの掲示や表記ができるようにしていく。
- ・近隣の小学校への周知  
学区内にある小学校へ「中学校の利用ルール」として伝達し、小中連携の方策としていきたい。